

函館市医療・介護連携推進協議会 令和元年度第1回会議

日時：令和元年11月20日（水）19：00～

場所：函館市役所 8階大会議室

【次第】

1 開 会

2 議 事

○ 報告事項

(1) 平成30年度函館市医療・介護連携支援センターの業務報告および収支報告について

(2) 函館市医療・介護連携支援センターの活動報告について

ア 地域の医療・介護の資源の把握

イ 医療・介護関係者の情報共有の支援

ウ 医療・介護連携に関する相談支援

エ 市民への普及啓発

オ 医療・介護関係者の研修

カ 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築

○ 協議事項

(1) 広域連携について

3 その他

4 閉 会

【配布資料】

- 1 業務報告、収支報告
- 2 医療・介護資源把握関係資料
- 3 情報共有ツール関係資料
- 4 相談統計
- 5 普及啓発活動一覧
- 6 研修関係資料
- 7 入退院支援関係資料
- 8 急変時対応関係資料
- 9 看取り関係資料
- 協議レジュメ（協議事項(1)関係）
- 10 広域連携関係資料

函館市医療・介護連携推進協議会 顧問・委員名簿

R1.11.20

(敬称略)

(顧 問)

分野	所属団体	職名	氏名	勤務先	令和元年度 第1回出欠
医療	公益社団法人 函館市医師会	会長	ホンマ サトシ 本間 哲	医療法人社団 本間眼科医院	出席
	一般社団法人 函館歯科医師会	会長	サワキ タケシ 澤木 健	澤木歯科医院	出席
	一般社団法人 函館薬剤師会	会長	クマカワ マサキ 熊川 雅樹	あおい薬局	出席
行政	函館市病院局	局長	ウジケ ヨシヒト 氏家 良人	函館市病院局	出席

(委 員)

(敬称略)

分野	所属団体	職名	氏名	勤務先	令和元年度 第1回出欠
医療	公益社団法人 函館市医師会	副会長	オナムラ ヒロキ 恩村 宏樹	医療法人社団 恩村内科医院	出席
	一般社団法人 函館歯科医師会	副会長	イワイ ユウジ 岩井 祐司	戸井歯科診療所	出席
	一般社団法人 函館薬剤師会	常務理事	ミズエ ヒデミチ 水越 英通	はこだて調剤薬局 昭和店	欠席
	公益社団法人 北海道看護協会 道南南支部	支部長	ヤハタ ナオミ 八幡 直美	雄心会 法人本部	欠席
	道南在宅ケア研究会	幹事	オカダ シンゴ 岡田 晋吾	医療法人社団 守一会 北美原クリニック	出席
	函館地域医療連携実務者協議会	世話人	カメヤ ヒロシ 亀谷 博志	社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院	欠席
	一般社団法人 北海道医療ソーシャルワーカー協会 南支部	理事	アラキ ヒデオ 荒木 英世	函館市病院局	出席
介護	函館市居宅介護支援事業所連絡協議会	会長	ワタベ ヨシヒト 渡部 良仁	居宅介護支援事業所 アニー	出席
	函館市地域包括支援センター連絡協議会	会長	マツノ ヨウ 松野 陽	函館市地域包括支援センターたかおか	出席
	函館市訪問リハビリテーション連絡協議会		テラダ マサヒロ 寺田 昌弘	社会医療法人 仁生会 西堀病院	出席
	道南訪問看護ステーション連絡協議会		ホサカ アケミ 保坂 明美	株式会社トラントユイット 訪問看護ステーション フレンズ	出席
	道南地区老人福祉施設協議会	会長	サイトウ タダフミ 齋藤 禎史	介護老人福祉施設シンフォニー	出席
行政	函館市保健福祉部	部長	オオイズミ ジン 大泉 潤	函館市	出席

(オブザーバー)

函館市医師会事務局 函館歯科医師会事務局 函館薬剤師会事務局 渡島総合振興局
--

(事務局等)

函館市保健福祉部 市立函館保健所 函館市医療・介護連携支援センター

1 函館市医療・介護連携支援センター業務報告（平成30年度）

（1）情報共有ツール作業部会関係業務

- 医療・介護関係者の情報共有の支援
 - ・ 情報共有ツール「はこだて医療・介護連携サマリー」の説明会を7回開催
 - ・ 「はこだて医療・介護連携サマリー」活用状況調査を2回実施
 - ・ 第8回、第9回情報共有ツール作業部会終了後、ICT研修会を開催

（2）多職種連携研修作業部会関係業務

- 医療・介護関係者の研修
 - ・ 多職種連携研修会を計7回開催（大規模1，中小規模6）
 - ・ 函館オープンカンファレンスを3回開催（開催病院との共催）
 - ・ 医療・介護関係団体が開催する研修情報一元化と提供に関する規定を作成
 - ・ 医療・介護に携わる15職種の専門職の方々からの職種紹介や話題等をコラム形式でホームページに掲載

（3）連携ルール作業部会関係業務

- 切れ目のない医療・介護の提供体制の構築
（退院支援分科会関係）
 - ・ 「はこだて入退院支援連携ガイド」の活用促進を目的とした「ガイドを活用した研修会」の開催
 - ・ 入退院支援連携ガイドの別冊版ガイドとして、「看取り」に関するガイドの作成を協議検討
 - ・ 「はこだて入退院支援連携ガイド」活用状況等のアンケート調査を実施
- 急変時対応分科会関係）
 - ・ 急変時対応に関する連携ルール検証のため、介護施設や医療機関の実態を調査

（4）その他

- 地域の医療・介護の資源の把握
 - ・ 「在宅医療・介護連携マップ」をホームページ上で運用
 - ・ センターホームページの活用に関するアンケートの実施
 - ・ マップの情報（H30.10月現在）の更新，機能の追加
- 医療・介護連携に関する相談支援
 - ・ 新規相談件数 248件（延べ件数864件）
- 市民への普及啓発
 - ・ リーフレットの配布，ホームページによる広報・周知
 - ・ 市民向け出前講座，地域包括支援センターの会合や，医療・介護関係者向け出張講座などにより，医療・介護連携を推進するセンター機能のPR活動を実施

2 収支報告

◀ 函館市医療・介護連携支援センター収支報告書 ▶

【 H30年度 実績 】

収入	予算額(A)	実績額(B)	備 考
受託事業	28,151,910	28,151,910	H30年度分

費用	予算額(A)	実績額(B)	備 考
人件費	22,600,000	22,034,418	職員4名 人件費
報償費	60,000	80,330	講師謝礼金
旅 費	304,019	230,640	研修会講師招聘旅費 研修旅費
需用費	433,551	489,928	消耗品
			燃料費
			印刷製本費
			光熱水費
役務費	467,940	319,640	郵送料
			電話料
			通信料
			自動車損害保険料
委託料	248,400	241,056	医療・介護資源マップ 保守管理
使用料及び賃借料	1,467,936	2,196,634	自動車借上料
			パソコン等賃借料
			複合印刷機使用料
			FAX使用料
			会場使用料
備品購入費	10,800	0	事務機器
小 計	25,592,646	25,592,646	
管理料	2,559,264	2,559,264	
合 計	28,151,910	28,151,910	
差 額		0	

ア 地域の医療・介護の資源の把握

(ア) 在宅医療・介護連携マップの更新（新規追加）状況

- ① 既存情報の更新～令和元年10月1日現在の情報にて更新作業中
- ② 詳細情報追加（居宅系：405件）

参考：詳細情報の内容

居宅介護支援事業所：105件

地域包括支援センター：10件

訪問介護：89件

訪問入浴介護：5件

訪問看護：23件

訪問リハビリテーション：15件

通所介護：53件

通所リハビリテーション：18件

福祉用具貸与：25件

定期巡回・随時対応型訪問介護看護：16件

夜間対応型訪問介護：2件

地域密着型通所介護：39件

認知症対応型通所介護：5件

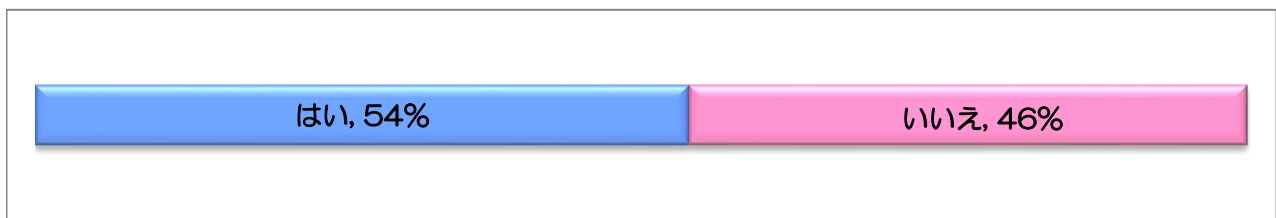
情報共有ツール作業部会 はこだて医療・介護連携サマリー モニタリング
 ○活用状況調査集計結果 H31.1.1～R1.6.30分

《所属機関》

種 別	(n=152)			(n=159)		
	H31.1.1～R1.6.30分			H30.7.1～H30.12.31分		
	配布件数 (a)	回収件数 (b)	種別ごと 回収率 (b) / (a)	配布件数 (a)	回収件数 (b)	種別ごと 回収率 (b) / (a)
① 入院医療機関	25 件	18 件	72%	27 件	17 件	63%
② 居宅介護支援事業所	105 件	49 件	47%	105 件	56 件	53%
③ 包括支援センター	10 件	9 件	90%	10 件	9 件	90%
④ 訪問看護	22 件	7 件	32%	21 件	8 件	38%
⑤ 短期入所生活介護	31 件	7 件	23%	30 件	10 件	33%
⑥ 短期入所療養介護	10 件	0 件	0%	10 件	0 件	0%
⑦ 特定施設入居者生活介護	14 件	9 件	64%	14 件	7 件	50%
⑧ 小規模多機能型居宅介護	20 件	6 件	30%	20 件	3 件	15%
⑨ 認知症対応型共同生活介護	49 件	18 件	37%	48 件	16 件	33%
⑩ 地域密着型特定施設入居者生活介護	15 件	5 件	33%	15 件	6 件	40%
⑪ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5 件	3 件	60%	5 件	2 件	40%
⑫ 看護小規模多機能型居宅介護	5 件	1 件	20%	5 件	1 件	20%
⑬ 介護老人福祉施設	17 件	11 件	65%	17 件	11 件	65%
⑭ 介護老人保健施設	8 件	4 件	50%	8 件	3 件	38%
⑮ 介護医療院	3 件	0 件	0%	1 件	0 件	0%
⑯ サ付・有料	79 件	5 件	6%	75 件	10 件	13%
合 計	418 件	152 件		411 件	159 件	

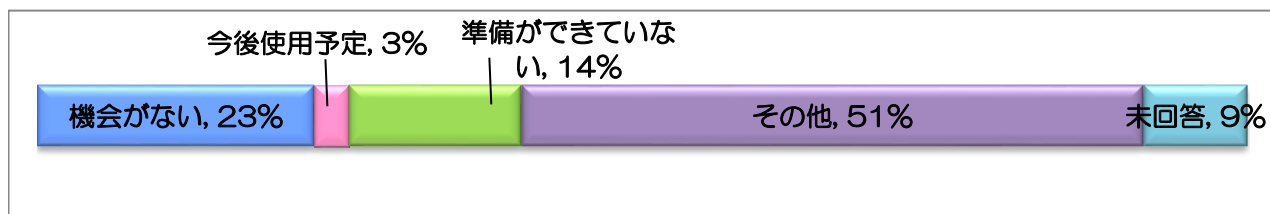
(1) 貴所属機関では、「はこだて医療・介護連携サマリー」（以下「サマリー」と表記）を作成し、情報共有に活用されたことがありますか。

項 目	H31.1.1～R1.6.30分		H30.7.1～H30.12.31分	
	受取件数	割合	受取件数	割合
① はい	82 件	54%	77 件	48%
② いいえ	70 件	46%	82 件	52%
③ 未回答	0 件	0%	0 件	0%
合 計	152 件		159 件	



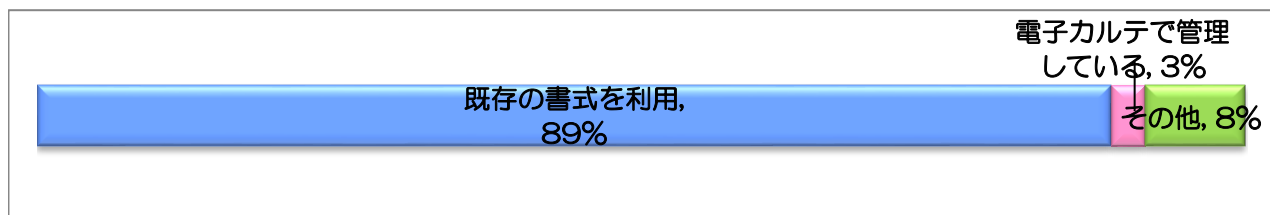
②いいえの理由。

項目	H31.1.1～R1.6.30分		H30.7.1～H30.12.31分	
	受取件数	割合	受取件数	割合
■活用していないとの回答のうち	70件		82件	
① 機会がない	16件	23%	17件	21%
② 今後使用予定	2件	3%	7件	9%
③ 準備ができていない	10件	14%	4件	5%
④ その他	36件	51%	43件	52%
⑤ 未回答	6件	9%	11件	13%



②いいえのうち、その他の理由。

項目	H31.1.1～R1.6.30分	
	受取件数	割合
■その他との回答のうち	36件	
① 既存の書式を利用	32件	89%
② 電子カルテで管理している	1件	3%
③ その他	3件	8%



・回答機関152件中の54%（82件）が使用していると回答。
 ・過去2回の調査と比較すると、活用したことがあるとの回答は増えてきている。
 ・今年度開催している入退院支援連携強化研修会により、次回の調査では更に良い形で変化がみられればと期待している。

(2) (1) で「①はい」とお答えされた方にお伺いします。

ア 平成31年1月1日から令和元年6月30日までの期間で、何件の「サマリー」を作成されましたか？

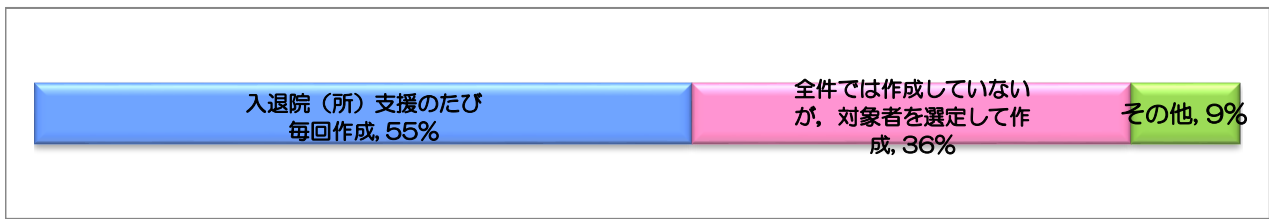
・最大作成件数は672件
 ・1機関の平均活用件数は1.6件

イ どのような機会に作成し、活用していますか。(複数回答あり)

項目	H31.1.1~R1.6.30分		H30.7.1~H30.12.31分	
	受取件数	割合	受取件数	割合
① 入院(所)時	67件	66%	63件	70%
② 退院時	16件	16%	10件	11%
③ 転院時	2件	2%	2件	2%
④ その他	11件	11%	15件	17%
⑤ 未記入	6件	6%	0件	0%
合計	102件		90件	

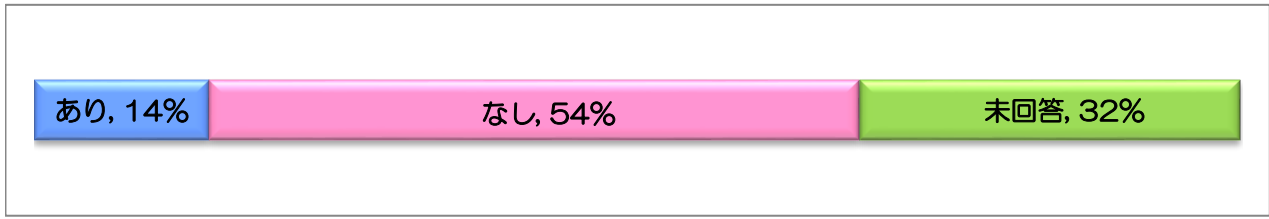
ウ どのくらいの頻度でお使いですか。(複数回答あり)

項目	H31.1.1~R1.6.30分		H30.7.1~H30.12.31分	
	受取件数	割合	受取件数	割合
① 入退院(所)支援のたび毎回作成	42件	55%	34件	38%
② 全件では作成していないが、対象者を選定(または限定)して作成	28件	36%	43件	48%
③ その他	7件	9%	13件	14%
合計	77件		90件	



(3) 「サマリー」の内容について、見直しが必要な箇所があると思われますか。

項目	H31.1.1~R1.6.30分		H30.7.1~H30.12.31分	
	受取件数	割合	受取件数	割合
① あり	22件	14%	28件	18%
② なし	82件	54%	77件	49%
③ 未回答	48件	32%	53件	34%
合計	152件		158件	



はこだて医療・介護連携サマリー Q&A集

(R1年9月24日 掲載分)

Q1. 食事摂取困難でない場合、食事の内容について書くスペースがあれば良いと思います。

A : フェイスシート版、プルダウン式サマリーになりますが、「食事摂取」の項目の*食形態、*食動作の横、または「食事・水分制限」の項目の横にある空白スペースを備考欄として入力できるようにセルを結合しております。最新版のサマリーをご活用ください。

また、基本ツールに書ききれない内容に関しては、応用ツール^⑱(特記事項)をご活用ください。(参考：(H31年3月12日 掲載分) Q2)

Q2. ADL(基本ツール)の部分ですが具体的な状態や支援内容(ズボンの上下おろしはできるなど)が記載できると良いと思いました。

A : Q1の回答と同様(参考：(H31年3月12日 掲載分) Q2)

Q3. 連絡先を1枚目に記入したら、そのまま2枚目にもとばして住所のみ記入できれば使いやすい。

A : 基本ツールに入力した情報が基本ツール2に反映するように修正いたしました。フェイスシート版も同様に修正しております。

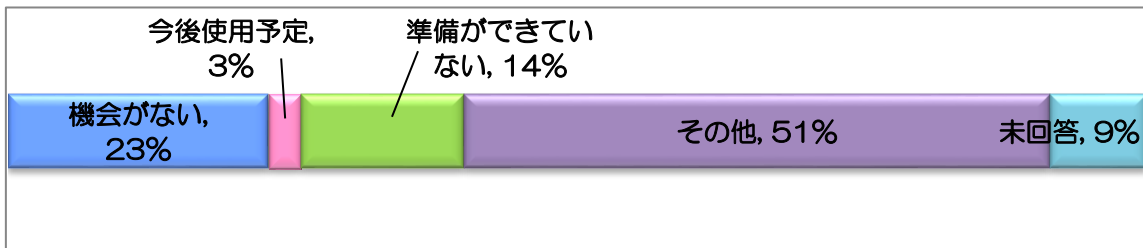
参考（ホームページ掲載用モニタリング結果）

情報共有ツール作業部会 はこだて医療・介護連携サマリー
活用状況調査集計結果 H31.1.1～R1.6.31分（n=152）

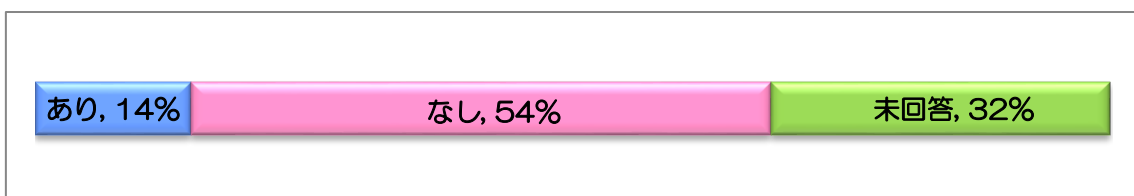
○貴所属機関では、「はこだて医療・介護連携サマリー」（以下「サマリー」と表記）を作成し、情報共有に活用されたことがありますか。



○上記いいえの理由。



○「サマリー」の内容について、見直しが必要な箇所があると思われますか。



令和元年度 入退院支援連携強化研修会について

(1) 開催方法

【参加対象者】（包括支援センターの圏域を4つに分け開催）
包括支援センターの職員，居宅介護支援事業所ケアマネジャー，
小規模多機能型居宅介護の職員，看護小規模多機能型居宅介護の職員

【内 容】

○講演

『急性期病院における入退院支援に必要な
情報共有の内容やタイミングについて』

講師：函館中央病院 退院支援看護師 奥山 ちどり 様

○はこだて医療・介護連携サマリーについて

説明者：函館市医療・介護連携支援センター 佐藤 静

○個人ワーク（事例をもとにサマリー作成）

○グループワーク

テーマ『入退院支援の中で，急変時病院と協働して
（利用者さんのために）できること』

(2) 開催状況及び開催予定

○第1回開催（45名参加）

【日 時】令和元年7月11日（木） 15:00～17:00

【協力包括】（東部・東中部第1・東中部第2 圏域内）

《函館市地域包括支援センター 社協・ゆのかわ・たかおか》

○第2回開催（50名参加）

【日 時】令和元年9月11日（水） 15:00～17:00

【協力包括】（西部・中央部第1・中央部第2 圏域内）

《函館市地域包括支援センター あさひ・こん中央・ときとう》

○第3回開催（予定）

【日 時】令和元年12月11日（水） 15:00～17:00

【協力包括】（北東部第2・北部 圏域内）

《函館市地域包括支援センター 亀田・よろこび》

○第4回開催（予定）

【日 時】令和2年2月頃

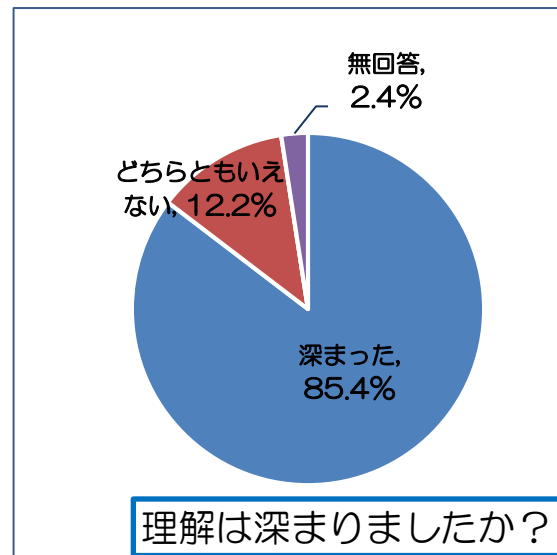
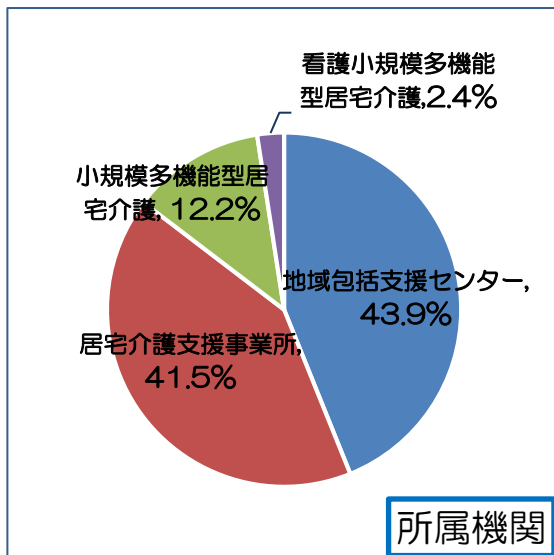
【協力包括】（北東部第1・北東部第3 圏域内）

《函館市地域包括支援センター 西堀・神山 圏域内》

(3) アンケート集計結果

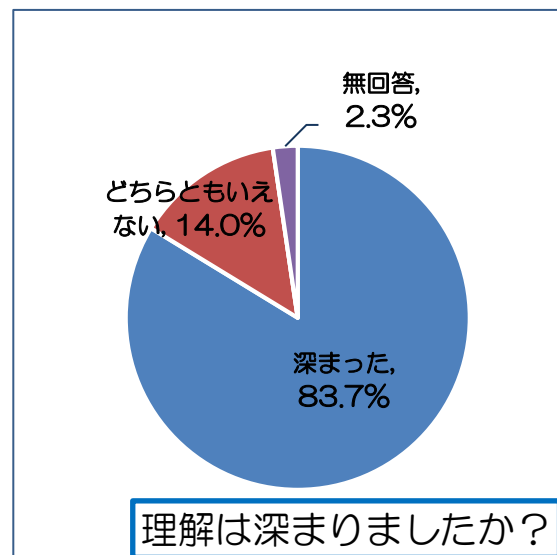
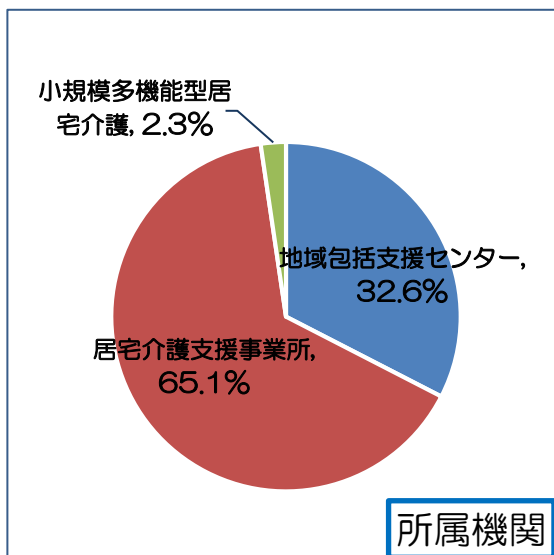
○第1回開催（45名参加）

n = 41（回収率 91.1%）



○第2回開催（50名参加）

n = 41（回収率 86%）



(4) その他

R01.09.19 在宅医療・介護連携コーディネーター育成研修会

参考：第1回 入退院支援連携強化研修会 まとめ（令和元年7月11日開催）

〈函館市地域包括支援センター 東部・東中部第1・東中部第2 圏域内〉

＜ グループワーク質問と応答の抜粋 ＞

- Q. 家族のいない人の場合、病院からケアマネジャーに判断を求められるのは困る。
- A. ケアマネジャーの立場で答えられる範囲であれば、その範囲内で答えても良いと思いますが、例えば、医療同意のことなど、ケアマネジャーの立場で判断できないものは「できない」とお答えして構いません。今後も折々で対応方法や対策を一緒に考えていければと思います。
- Q. 入院中でも医療機関から定期的に報告があればうれしい。
- A. 医療機関も転院や退院等、何か変化があったタイミングで情報提供をするよう努めています。しかし、やむを得ない事情により連絡ができない場合も多々あるかと思しますので、そういった状況を想定して、在宅支援者側からできることを常に考えつつ行動していけると良いと思います。例えば、情報提供を行う機会等を通して、顔の見える関係を作り、細やかに情報共有ができる関係を形成することが重要だと思えます。
- Q. 情報のやり取りの決まりごとがあると動きやすい。
- A. 今後の皆さんとの活動の中で、少しずつルール作りの材料が見えてくるとよいと思っております。
- Q. 入院時に何を提供すればいいのかわからない。
- A. ぜひサマリーをご活用ください。ここに載っている情報が、情報提供していただきたい項目になります。
- Q. すべての患者さんにサマリーは必要なのか。（元気な方や検査入院でも必要か）
- A. サマリー活用の判断やルール（情報提供の有無の判断等）に関しては、基本的には各事業所の取り決めにお任せしておりますが、検査入院や定期的な入院であっても、以前と比べて大きく状態が変化している等の状況がみられる場合は、是非その情報を病院と共有していただければと思います。
- Q. 面会制限がある方への対応に迷うことがある。
- A. 面会制限がある方への対応については、まずは各機関の連携室（相談室）にご相談ください。

Q. 退院後の報告は病院側ではどこまで知りたいのか。(鬱陶しいと思われたくないので…)

A. まずは退院後の療養生活についてお伝えできることが大切と考えております。病院側では、退院支援の振り返り等の参考になっております。どこまでというのは、今後の研修の中でも共に検討していければ良いと考えます。

< 困ること >

- 施設側は家族に近い役割を求められる。
- 退院間近にサービス調整依頼（早期対応）があり、対応に苦慮する。
- 退院前、事前にサマリーなどの情報（ADL等の情報）が欲しい。日程に余裕がない場合がある。できれば退院の1週間前には情報が欲しい。
- 病院内の連携に疑問を感じることもある。
- サマリーを早く持っていきたいと思っても、他の業務もあり、すぐに提出できないこともある。
- カンファレンスの日時指定が辛いときもある。
- 長期入院からの退院時に相談を受けるも、入院前の介護情報がない。（実は以前ケアマネがついていた等）

《 おわりに 》

この度の研修会を通して、皆様から貴重なご意見やご質問をいただきまして、誠にありがとうございました。函館市医療・介護連携推進協議会において、今後の課題として大切に捉え、この先の研修会等の参考とさせていただきます。

私たち函館市医療・介護連携推進協議会が思う、医療と介護の連携に一番必要な要素とは「おもいやり」の気持ちだと感じています。同じ支援者として医療も介護もお互いに思いやりを持ちながら協働していくことができれば、この先もっとスムーズな医療・介護の連携が進んでいくのではないかと考えております。

この度の研修のテーマである入退院支援連携においても、同様のことが言えると思います。誰かが発信した「おもいやり」が、山びこのように帰ってくる。そんな地域になっていくことが医療・介護連携促進の近道なのではないでしょうか。

私たちが暮らすこの函館市の医療と介護の連携強化のため、皆さんと一緒に悩み、考え、皆さんと一緒にこの地域の未来を創っていくことができればと願っております。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

別記第2号様式

相談統計(平成31年04月01日～令和元年10月31日)

1 新規の相談

(1)相談内容別

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
退院支援・調整	6	1	3	6	5	0	0						21	3.0
日常の療養支援	10	13	6	11	13	6	11						70	10.0
急変時の対応	0	1	0	0	1	0	0						2	0.3
看取り	0	2	0	1	0	0	0						3	0.4
その他	1	0	0	9	2	10	2						24	3.4
合計	17	17	9	27	21	16	13						120	17.1

(2)相談依頼者別

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
本人	2	3	1	4	3	3	0						16	2.3
家族	4	4	6	7	3	4	3						31	4.4
在宅医療機関(診療所)	0	1	0	0	0	0	0						1	0.1
在宅医療機関(病院)	0	0	0	1	1	1	0						3	0.4
入院医療機関(診療所)	0	0	0	0	0	0	0						0	0.0
入院医療機関(病院)	6	1	2	7	6	1	3						26	3.7
医療機関(歯科)	0	0	0	0	0	0	0						0	0.0
薬局	0	0	0	0	0	0	0						0	0.0
地域包括支援センター	3	2	0	1	2	1	3						12	1.7
居宅介護支援事業所	1	3	0	3	3	2	0						12	1.7
訪問看護ステーション	0	1	0	0	0	0	0						1	0.1
老人福祉施設	0	0	0	0	1	0	1						2	0.3
介護保険事業所	0	1	0	3	1	0	3						8	1.1
その他	1	1	0	1	1	4	0						8	1.1
合計	17	17	9	27	21	16	13						120	17.1

2 新規および継続の相談対応方法別

(単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
電話	24	29	9	49	31	26	23						191	27.3
訪問	1	0	0	0	0	1	0						2	0.3
来所	11	8	8	18	12	5	5						67	9.6
文書	0	1	0	0	0	0	0						1	0.1
メール	1	1	0	0	0	0	1						3	0.4
関係者協議	21	28	14	24	22	7	11						127	18.1
その他	0	0	0	1	1	1	0						3	0.4
合計(延べ件数)	58	67	31	92	66	40	40						394	56.3

平成30年度参考

別記第2号様式

相談統計(平成30年04月01日～平成31年03月31日)

1 新規の相談

(1)相談内容別

(単位:件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
退院支援・調整	6	9	8	7	5	5	4	4	2	1	0	8	59	4.9
日常の療養支援	16	14	10	8	10	10	12	21	14	10	13	7	145	12.1
急変時の対応	1	0	1	0	1	2	1	1	0	0	1	1	9	0.8
看取り	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3	0.3
その他	5	2	4	4	3	3	6	1	1	1	2	0	32	2.7
合 計	28	25	23	19	19	21	23	28	17	12	16	17	248	20.7

(2)相談依頼者別

(単位:件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
本人	4	2	1	1	2	3	0	5	1	2	2	3	26	2.2
家族	8	13	5	3	2	6	6	8	4	4	2	5	66	5.5
在宅医療機関(診療所)	3	0	1	0	1	1	1	1	3	0	0	1	12	1.0
在宅医療機関(病院)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1
入院医療機関(診療所)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0.2
入院医療機関(病院)	4	5	7	5	4	2	7	4	3	1	2	3	47	3.9
医療機関(歯科)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
薬局	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3	0.3
地域包括支援センター	2	0	1	0	5	1	1	2	1	2	3	0	18	1.5
居宅介護支援事業所	2	3	2	4	2	5	3	3	1	1	4	2	32	2.7
訪問看護ステーション	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2
老人福祉施設	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	6	0.5
介護保険事業所	0	0	1	2	1	1	2	0	1	0	0	0	8	0.7
その他	2	2	3	3	2	1	3	3	1	1	3	1	25	2.1
合 計	28	25	23	19	19	21	23	28	17	12	16	17	248	20.7

2 新規および継続の相談対応方法別

(単位:件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
電話	37	26	33	27	30	51	31	30	36	24	25	17	367	30.6
訪問	0	1	3	2	4	0	0	0	0	0	0	0	10	0.8
来所	9	12	12	6	6	12	10	18	8	5	6	7	111	9.3
文書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
メール	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0.3
関係者協議	15	67	49	16	32	38	15	30	36	25	16	16	355	29.6
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	6	6	4	1	18	1.5
合計(延べ件数)	62	106	98	52	72	101	56	79	86	60	51	41	864	72.0

普及啓発活動一覧

【市民向け出前講座】

- R01.06.17 北海道教育大学函館校 13名
R01.06.19 函館市湯川老人福祉センター 23名
R01.07.22 函館市谷地頭老人福祉センター 30名
R01.07.29 学校法人西野学園 函館臨床福祉専門学校 60名
R01.08.23 函館市美原老人福祉センター 15名
R01.09.05 ふらっと Daimon 高齢者大学 100名
R01.09.06 ふらっと Daimon 高齢者大学 100名
R01.09.11 函館市総合福祉センター内老人福祉センター 20名

【医療・介護関係者向け出張講座】

- R01.09.07 北海道看護協会道南支部 看護管理者懇談会 60名
R01.09.19 在宅医療・介護連携コーディネーター育成研修会 30名

【医療・介護関係者向けセンターPR】（リーフレット配布数）

- H31.04.04 一般社団法人 北海道歯科衛生士会 函館支部（30部）
- H31.04.04 北海道言語聴覚士会 道南支部（100部）
- H31.04.09 北海道作業療法士会 道南支部（100部）
- H31.04.09 道南地区老人保健施設事務長連絡会（50部）
- H31.04.10 函館市ホームヘルパー連絡協議会（100部）
- H31.04.10 北海道理学療法士会 道南支部（100部）
- H31.04.11 函館市デイサービスセンター・訪問入浴連絡協議会（100部）
- H31.04.10 公益社団法人北海道栄養士会 函館支部（100部）
- H31.04.12 一般社団法人北海道介護福祉士会 道南支部（100部）
- H31.04.12 南北海道グループホーム協会（100部）
- H31.04.13 北海道社会福祉士会 道南地区支部（40部）
- H31.04.25 北海道精神保健福祉士協会 道南ブロック（100部）

【医療・介護教育機関向けセンターPR】（リーフレット配布数）

- R01.05.08 北海道教育大学函館校（50部）
- R01.05.13 函館市医師会看護専門学校（50部）
- R01.05.17 市立函館病院高等看護学院（50部）
- R01.05.17 函館厚生院看護専門学校（50部）
- R01.05.17 函館看護専門学校（50部）
- R01.05.20 函館臨床福祉専門学校（50部）
- R01.05.21 函館視力障害センター（50部）
- R01.05.23 函館歯科衛生士専門学校（50部）
- R01.05.28 公立はこだて未来大学（50部）
- R01.05.29 函館大妻高等学校（50部）
- R01.05.30 函館大谷短期大学（50部）
- R01.06.11 函館短期大学（50部）
- R01.06.13 函館大学（50部）

○研修会一覧（平成31年4月～令和元年10月）

ア 介護関係者向け研修会

日 時：①令和元年5月28日（火）18：30～19：30

②令和元年8月20日（火）18：30～19：30

場 所：市営函館競輪場テレシアター（①，②）

テーマ：「正しい病院のかかり方（医療介護連携編）」

講 師：社会福祉法人函館厚生院 函館五稜郭病院

法人内・法人外連携推進担当課長 船山 俊介 様

参加者：199名（①），134名（②）

イ 医療関係者向け研修会

日 時：①令和元年5月30日（火）17：30～18：30

②令和元年8月23日（金）17：30～18：30

場 所：医療法人雄心会 函館新都市病院（①）

社会医療法人 函館博栄会 函館渡辺病院（②）

テーマ：「介護サービスの概要と役割（医療との連携）」

講 師：医療法人社団函館脳神経外科指定居宅介護支援事業所

管理者・主任介護支援専門員 宮城 智美 様

参加者：76名（①），78名（②）

ウ 函館オープンカンファレンス

日 時：令和元年8月22日（木）18：30～20：00

場 所：社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院

進行役：医療法人道南勤労者医療協会 函館稜北病院 副院長 川口 篤也 様

参加者：138名

エ 施設看取り研修会

日 時：令和元年9月25日（水）19：00～20：00

場 所：市営函館競輪場テレシアター

内 容：「函館市内の施設による看取りケアの取り組み報告」

医療法人大庚会 グループホーム街

管理者・計画作成者 生田 友希 様

地域密着型特定施設 介護付有料老人ホーム 白ゆり乃木

生活相談員 大黒 玲央奈 様

参加者：150名

オ 函館市における多職種連携への理解の促進

<地域包括ケア看護職ネットワーク強化研修会>

日 時：令和元年10月26日（土）13：30～17：00

場 所：社会医療法人 函館博栄会 函館渡辺病院

テーマ：「認知症の人を地域（病院、施設、在宅等）で支えるための看看連携
を考える」

内 容：①講 義 「認知症の人のアセスメントとケアの実践」

講 師 北海道立江差病院

認知症看護認定看護師 薄田 珠緒 様

②事例検討 「支援を継続するための看看連携を考える」

参加者：106名

ホームページ上で掲載した研修情報一覧（平成31年4月～令和元年10月）

月	研修名称（団体名）	件数
4月	函館消化器病懇談会 『高齢者への慢性便秘症診療を切り拓く』 （国立病院機構 函館病院）	2件
	第9回 ICNJ北海道支部 道南ブロック研修会 『尿路感染対策～介護（ケア）する側・される側の立場から～』 （日本感染管理ネットワーク北海道支部 支部長）	
5月	地域がん診療連携拠点病院講習会 『胃癌の薬物療法』 『胃癌で死なないために』 （市立函館病院）	4件
	第23回 呼吸ケア研修会 『チームで取り組む呼吸リハビリテーション』 （道南呼吸ケア研究会）	
	函館緩和ケアセミナー 『疼痛管理を目指した薬剤師による地域連携』 『がんサバイバーに対する循環器サポートと緩和ケア～Cardio-Oncologyの現状と今後の課題～』 （函館五稜郭病院）	
	2019年度南渡島地域包括緩和ケアネットワーク 会員総会並びに第13回定例会 『木古内・福島・松前の緩和ケア・在宅ケアの事情について』 （南渡島地域包括緩和ケアネットワーク）	
6月	国立病院機構函館病院 第40回 緩和ケア勉強会 『緩和ケアにおける口腔ケア』 （国立病院機構函館病院）	6件
	令和元年度 北海道介護福祉士会道南支部第1回研修会 『いまさら聞けない介護職と看護職のキモチ…』 （北海道介護福祉士会道南支部）	
	令和元年函館市地域ケア全体会議 民生委員とケアマネジャーのための勉強会 『つながる支援の輪』 （保健福祉部地域包括ケア推進課）	
	第11回 函館五稜郭病院 緩和ケア研修会 『がん性疼痛等の身体症状及び精神症状に対する 緩和ケア・コミュニケーションに関する講義、ワークショップ、ロールプレイ等』 （函館五稜郭病院）	
	道南在宅ケア研究会 第50回定例会・会員総会 『サ高住で診る～がん患者難民を防ぐために～』 （道南在宅ケア研究会）	
	第148回 国立函館病院合同教育講座 『ロボット手術の現状と今後の動向～われわれの診療にどう影響するか？～』 （国立病院機構函館病院）	
7月	第36回 函館五稜郭病院がんセンターボード 『院内の各チームからの報告』 『領域別がんセンターボードからの報告』 『乳腺がんセンターボードからの症例報告』 （函館五稜郭病院）	3件
	五稜郭病院感染対策セミナー 『自分自身を護るための感染対策』 （函館五稜郭病院）	
	第78回 五稜郭セミナー 『リウマチ治療に必要な感染症の知識～安全に治療を行うために～』 （函館五稜郭病院）	
8月	第150回 国立函館病院合同教育講座 『肺癌早期発見に向けて～現状と将来～』 （国立病院機構函館病院）	5件
	2019年度 実践講座「医療同意と意思決定支援」 『医療同意と意思決定支援における諸問題』 『人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて』 （北海道医療ソーシャルワーカー協会）	
	日本死の臨床研究会北海道支部 秋の研究会 『がんと共に歩む力を～安心して心開ける第3の居場所』 （道南在宅ケア研究会）	
	認知症市民講座 認知症を見つめなおす 『認知症の人と家族を支える地域づくりに向けて』 『知って安心！楽しく学ぼう認知症～MC1、高齢者てんかんも学ぼう～』 （道南認知症疾患医療連携協議会）	
	Care Do 北海道 2019 『地域で暮らし続けるための生活・療養支援』 他 （Care Do 北海道）	

月	研修名称（団体名）	件数
9月	第151回 国立函館病院合同教育講座 『長崎大学病院における医科歯科連携の現状 がん患者の口腔管理と薬剤関連顎骨壊死を中心に』 (国立病院機構 函館病院)	6件
	令和元年度 難病患者在宅療養支援学習会 『神経難病患者を地域で支えるためのネットワークづくり』 (市立函館保健所 保健予防課 感染症・難病担当)	
	口腔ケアから始まる経営戦略 『高齢者施設において誤嚥性肺炎・インフルエンザを予防できた理由（わけ）～多職種連携による口腔ケアの威力～』 『胃癌で死なないために』 (道南圏域在宅歯科医療連携室)	
	テレワークを活用した難病のある人の就労支援ワークショップ 『国の難病就労支援・向立支援の動向とテレワークへの期待』 『テレワークとは？難病のある方のテレワーク事例』 (道南しょうがい者就業・生活支援センターすてっぷ)	
	第152回 国立函館病院合同教育講座 『肝硬変治療の最新知見 体液・栄養・エネルギー管理』 (国立病院機構函館病院)	
	第37回 函館五稜郭病院カンサーボード 『緊急事態発生時の対応について ～放射線治療編～』 『外来化学療法を受ける高齢者を支える看護』 『がん追跡調査結果報告』 『がん患者の認知症、せん妄の見分け方、対応方法について（仮）』 (函館五稜郭病院)	
10月	第153回 国立函館病院合同教育講座 『乳がんの診断と治療について』 (国立病院機構函館病院)	8件
	2019年度 社会福祉セミナー 「地域課題をとらえるチカラ」－共生社会の中で－ 『あなたは地域の課題を本当にとらえていますか？』 『多様性の尊重と包摂社会は人のためならず』 (北海道社会福祉士会 道南地区支部)	
	2019年度 高齢者および認知症支援のための看護職連携等推進事業 『最期まで自分らしく生きるために準備すること～一緒に考えてみませんか～』 (北海道看護協会)	
	令和元年度 日本ホームヘルパー協会函館支部 北部ブロック研修会 『支える側が支えられるとき』 『訪問介護事業者の業務上トラブルと対策について』 (日本ホームヘルパー協会函館支部)	
	南渡島地域包括緩和ケアネットワーク 第15回定例会のご案内 『地域でアドバンスケアプランニングを普及させるためには』 (南渡島地域包括緩和ケアネットワーク)	
	第154回 国立函館病院合同教育講座 『心不全治療としての構造的疾患インターベンションと解決すべき課題』 (国立病院機構函館病院)	
	整形外科領域 第1回リスク管理アセスメント研修会 『患者さんのこんなサインを見逃すな！』 (函館鍼灸マッサージ師連絡協議会)	
	メディカ体験・説明会 (特定非営利活動法人道南地域医療連携協議会)	
合計		34件

(その他) 参考情報提供（函館市外の研修情報）

函館市医療・介護連携支援センター 主催・共催研修会

1件

7件

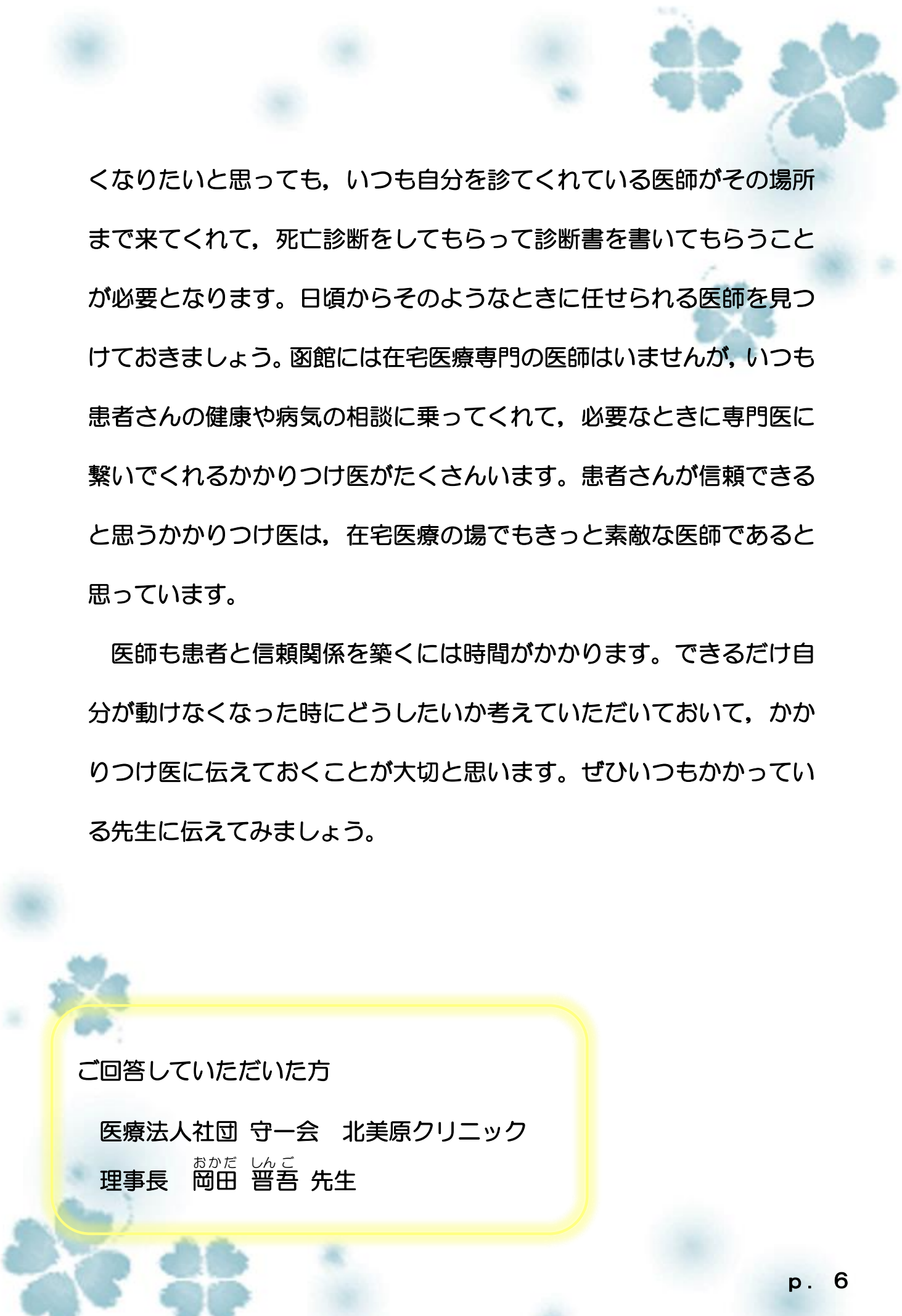
それぞれの立場からの看取り

第1回 『在宅医』

在宅医というお題で原稿依頼を受けましたが、残念ながら在宅医療を専門とする在宅医という専門職は函館にはいません。都会では外来診療をほとんど行わず、在宅医療を専門的に行っている在宅医療専門診療所というところがたくさんあります。しかし、函館では在宅医療を行っている診療所や病院は、通常の外来診療を行いながら、昼休みや夕方に往診や訪問診療を行っているところばかりです。

ただ、専門職じゃないからダメと言うことではありません。医療・介護の現場で医師がやらなければいけないことは限られています。在宅医療においても、実際には訪問看護師、ケアマネジャー、薬剤師、リハビリスタッフ、歯科スタッフなど多くの専門職が活躍してくれています。そして、この函館はそのような優秀な多職種が常に一緒に研鑽を重ね、連携を深めている先進地域なのです。

医師は、患者や家族、在宅スタッフからの情報をまとめたうえで、必要な指示や薬剤の処方箋などを提供することが一番の仕事となります。そして、他の職種ができないことには、死亡診断書を書くことがあります。医師しかできないことです。たとえ最後は住み慣れた家や施設で亡



くなりたいと思っても、いつも自分を診てくれている医師がその場所まで来てくれて、死亡診断をしてもらって診断書を書いてもらうことが必要となります。日頃からそのようなときに任せられる医師を見つけておきましょう。函館には在宅医療専門の医師はいませんが、いつも患者さんの健康や病気の相談に乗ってくれて、必要なときに専門医に繋いでくれるかかりつけ医がたくさんいます。患者さんが信頼できると思うかかりつけ医は、在宅医療の場でもきっと素敵な医師であると思っています。

医師も患者と信頼関係を築くには時間がかかります。できるだけ自分が動けなくなった時にどうしたいか考えていただいております。かかりつけ医に伝えておくことが大切だと思います。ぜひいつもかかっている先生に伝えてみましょう。

ご回答していただいた方

医療法人社団 守一会 北美原クリニック

理事長 おかだ しんご 岡田 晋吾 先生

令和元年9月吉日

関係者各位

函館市医療・介護連携推進協議会

連携ルール作業部会退院支援分科会

分科会長 福島 久美子

「はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会」の開催について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、函館市医療・介護連携推進協議会 連携ルール作業部会退院支援分科会および函館市医療・介護連携支援センターでは、事例をもとに「はこだて入退院支援連携ガイド」を活用した研修会を開催する運びとなりました。函館市内の入退院支援における相互の連携支援について、自職種のスタンダードな連携の在り方や所属機関によって異なる連携、さらに他職種の動き等をディスカッションすることで、相互理解の促進と顔の見える関係づくりができる機会として下記の内容で研修会を開催いたします。

敬具

記

『はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会』

【日 時】 令和元年10月10日（木）18:30～20:00（受付18:00～）

【場 所】 函館市医師会病院5階講堂
（住所：函館市富岡町2丁目10番10号 電話：43-6000）【参加者】 退院支援看護師（5）、訪問看護師（10）、病棟看護師（10）
医療ソーシャルワーカー（10）、地域包括支援センター職員（7）、
居宅介護支援事業所ケアマネジャー（8）計50名【内 容】 事 例 「退院支援が必要な事例」
事例提供者 函館中央病院 退院支援看護師 奥山 ちどり 様

グループワーク「事例をもとにガイドを活用し適切な連携の在り方」を考える

※ご多用の折に大変ご迷惑をおかけしますが、参加を取りまとめて頂き、令和元年9月27日（金）
までにご連絡をお願いいたします。

[お問い合わせ先]

函館市医療・介護連携支援センター（函館市医師会病院内） 担当：佐藤，長谷川，中村，鎌田
電話：43-3939 FAX：43-1199 Email：ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp

R1.10.10 はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修会 アンケート集計結果 分析

n=47 (90.4%)

1. 所属機関をお聞かせください。

・病院	19	(40.4%)
・診療所	0	(0.0%)
・訪問看護事業所	10	(21.3%)
・地域包括支援センター	10	(21.3%)
・居宅介護支援事業所	8	(17.0%)
・その他(介護老人保健施設)	0	(0.0%)

2. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・保健師	1	(2.1%)
・看護師	20	(42.6%)
・リハビリスタッフ	0	(0.0%)
・相談員	13	(27.7%)
・事務員	0	(0.0%)
・ケアマネジャー	13	(27.7%)
・その他	0	(0.0%)

3. 研修会を受講し、医療・介護関係者の相互理解は深まりましたか？

・深まった	41	(87.2%)
・どちらともいえない	5	(10.6%)
・あまり深まらなかった	0	(0.0%)
・無回答	1	(2.1%)

【ご意見等】

- ・職種が違うと今までにない気づきがありました。
- ・ケアマネ側の思いや病院側の思いを知れました。
- ・各機関職種の声を直接聞くことができて良かったです。
- ・職種が違うと今までにない気づきがありました。
- ・各機関職種の声を直接聞くことができて良かったです。
- ・ケアマネ、訪看 ダブって同じ情報をサマリーに書いている。お互い欲しい情報を明確にして欲しい。
- ・他職種の方が必要としている情報や知らなかった活動内容等日ごろの思いやジレンマ等に触れ話し合うことができたと思いい良かったです。
- ・GWは盛り上がった。あつという間に時間が過ぎました。まだまだ話は足りないくらいでした。
- ・つぶやきが多く出たので見てほしい。
- ・互いにやって欲しい事や欲しい情報について理解できた。
- ・各業種の方との意見交換で日ごろの疑問が解消出来て良かった。
- ・訪看や病棟看護師がいて日ごろ聞けないことが聞けて面白かった。連携を深めるため活動している事考えていることが把握できた。
- ・居宅、訪看、MSW、地域包括の役割を知ることができた
- ・多職種協働にはそれぞれの立場を理解する、欲しい情報は異なることもあるという理解もとても大切だと思います。ひと昔に比べて随分相互理解が深まっていると実感しています。
- ・1時間では深まらない。
- ・GWにおいて介護側(在宅)は病院の仕組みやMSWの立場など理解したうえでより良い支援に向けての意見を出すのが、グループ内MSWからは「できない理由」についての返答が多く正直「連携は無理だな」と思ってしまう。もっと前向きな討論ができると良いと思いました。
- ・理解を深めるための第1歩だと思います。
- ・訪問看護やケアマネが必要と思っている情報がわかった。

4. 今回のようなガイドを使った研修会を続けてほしいですか？

・続けてほしい	44	(93.6%)
・どちらともいえない	2	(4.3%)
・続けなくても良い	0	(0.0%)
・無回答	1	(2.1%)

【ご意見等】

- ・ガイドで認識を統一できるとより良い支援につながると思うので。
- ・機会があれば参加したいと思いました。
- ・連携ツールを活用することは必要があるが、それぞれのやり方(サマリー等)もあり色々なツールがあるのもひと手間。それぞれの役割を理解して使えるのもっと有効的に使えるのではないか。在宅を見据えた支援を検討する時に入院中にもう少し関わる担当者の情報共有できる場があると良いのではないか。全体を通して顔の見える関係であることも連携という部分ではとても重要だと思う。
- ・まだ考えている以上に立場の違いですれがあることがわかったので上手な使い方を学びたい。
- ・リハ職が出席しても面白いかも。
- ・病棟看護師の方や訪問看護師等日ごろ話をなかなかできない方とのGWは面白い。
- ・病院の都合等がわかり勉強になりました。
- ・ヘルパーさんの参加もあれば良いと思います。
- ・病院看護師なので多職種との関わりを持つために続けてほしいと思う。
- ・出たことのない事業所、病院にこそ参加していただきたい。
- ・看護サマリーをすべてこの基本ツールにする取り組みをして欲しいです。
- ・研修GW中にガイドを確認する時間を取れるのもっと良いと思います。
- ・もっとCMが出席できていたらと思いました。

5. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

【ご意見等】

- ・地域包括連携について。
- ・病院機能の紹介の場を作る。(お互いを知る)
- ・多職種で意見交換できるもの。
- ・同様の内容で看護師も病棟師長、主任などの出席がもしあるともう少し医療職内でも普及するのかもと考えます。内容は同じで大丈夫だと思います。
- ・事例検討。
- ・事例を通して具体的な話が出来たらと思います。
- ・症例検討 報告等。
- ・今回初めてこのツールを知りました。様々な情報が入っており使いやすいので函館のどの施設でもこの用紙を使うような、もっとこのツールを広めるような研修を希望。
- ・リハビリ、病棟看護師も含めた研修(Dr.も)今回同様にGWを複数回行うなど。

6. その他、ご意見等ございましたらお書きください。

- ①出席メンバーの固定化(マンネリ化)があるような気がします。続けていくのは決して悪いことではないです。ある程度人数がいる機関や部署の方々への案内時には「出たことが無い方」「前回とは別の方」と条件を付けるのも面白いかも知れません。②参加者に「ガイドを使っての連携について」「普及のために自分たちの立場でやれること」等グループワークを試してみるのも面白いかも知れません。
- ・他職種で話が来て良かったです。
- ・ファシリテーターとして参加させていただきました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・時間が少し短かったです。
- ・実りある研修ありがとうございます。準備から開催にかけて大変お疲れさまでした。
- ・顔の見える関係づくりもできた。MSWとのつながりを深めたい。
- ・時間外ではなく時間内の開催を希望。可能なら土曜日の午前とか。
- ・他の職種の方々とお話しできることが良かったです。

オーバーナイト対象患者に係るヒアリング調査結果(医療サイド)

- 1 調査対象期間:平成31年1月1日～令和元年6月30日
- 2 調査対象:空床情報システムに登録している急変時対応協力機関, 2次救急医療機関
- 3 ヒアリング項目
 - 1)年齢 2)性別 3)居住地 4-1)紹介元病院(オーバーナイトを行った病院)
 - 4-2)空床情報システムの確認の有無 5)病名 6)2次救急医療機関へ救急搬送された経緯
 - 7)オーバーナイト後から転院受け入れまたは退院までに要した期間
 - 8)転院受け入れ後から退院までの入院期間 9)退院先

4 調査結果

①急変時対応協力機関

- 1)80代
- 2)男性
- 3)函館市
- 4-1)急性期病院
- 4-2)確認している
- 5)頭部打撲, 認知症
- 6)路上で倒れているところを近隣の人が発見し救急要請
- 7)3日間(5月下旬)
- 8)不明
- 9)後方支援病院

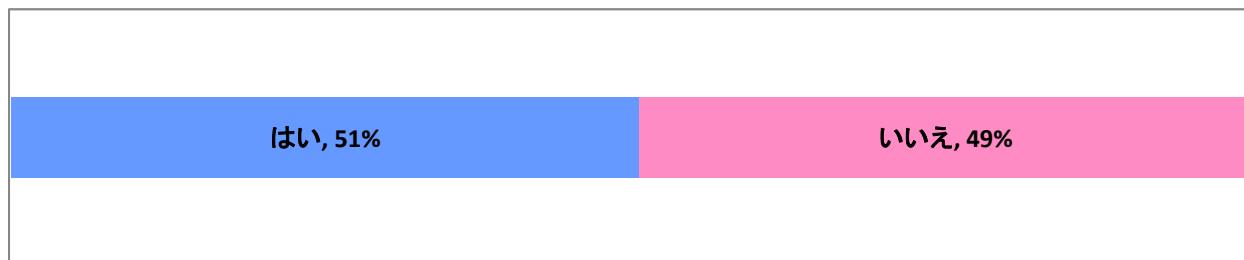
高齢者の急変時の救急受診にかかわる調査（介護サイド）

対象事業所～394件
回収～176件（回収率45%）

種 別	配布件数	回収件数	種別ごと回収率
① 居宅介護支援事業所	107 件	55 件	51%
② 包括支援センター	10 件	10 件	100%
③ 訪問看護	22 件	9 件	41%
④ 短期入所生活介護	31 件	10 件	32%
⑤ 短期入所療養介護	10 件	3 件	30%
⑥ 特定施設入居者生活介護	14 件	11 件	79%
⑦ 小規模多機能型居宅介護	20 件	9 件	45%
⑧ 認知症対応型共同生活介護	48 件	25 件	52%
⑨ 地域密着型特定施設入居者生活介護	13 件	9 件	69%
⑩ 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	5 件	4 件	80%
⑪ 看護小規模多機能型居宅介護	5 件	3 件	60%
⑫ 介護老人福祉施設	17 件	8 件	47%
⑬ 介護老人保健施設	8 件	4 件	50%
⑭ 介護医療院	3 件	1 件	33%
⑮ サ付・有料	81 件	15 件	19%
合 計	394 件	176 件	

（1）貴所属機関において、平成30年6月1日から令和元年6月30日までの期間で、夜間や休日に高齢者の容態が急変した際に救急医療機関（※）へ受診対応（救急車の要請含む）した事例がありましたか？

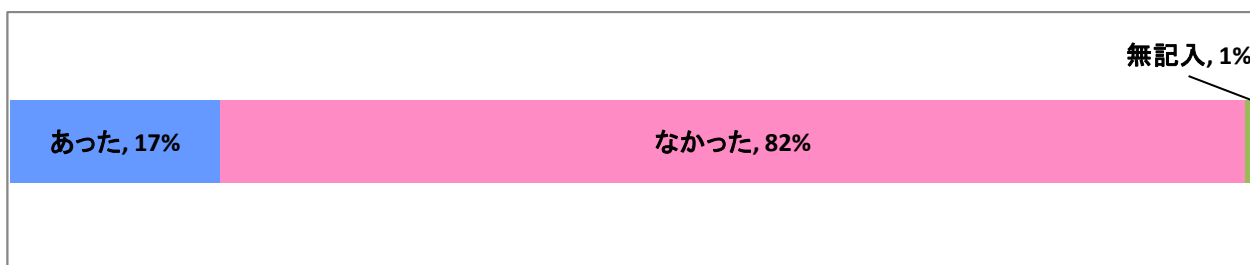
項 目	受取件数	割合
① はい	89 件	51%
② いいえ	87 件	49%
合 計	176 件	



(2) (1)で「①はい」とお答えされた方にお伺いします。

ア 救急受診した際に、診察の結果、入院の判断とならずに帰宅となり対応に困った事例はありましたか？

項目	受取件数	割合
① あった	15 件	17%
② なかった	73 件	82%
③ 無記入	1 件	1%
合計	89 件	



急変時対応 施設訪問

訪問日	施設種別	施設名
平成31年4月30日	特養・SS	旭ヶ岡の家
令和元年5月9日	特養・SS	さくら館
令和元年5月13日	特定施設	みやまえ
	特定施設	ふかせ
令和元年5月22日	小規模・GH	なでしこ
	GH	秋桜
令和元年7月9日	特養・SS	おおぞら
	特定施設	白ゆり乃木
令和元年7月12日	SS	くうら
令和元年7月17日	SS	アプタスクうら
令和元年7月19日	GH	街
令和元年7月30日	ヘルパー	そよかぜpart2ゆのかわ
令和元年8月5日	特養・SS	愛泉寮
令和元年8月6日	ヘルパー	笑福
令和元年8月20日	ヘルパー	テーオー

在宅看取りに関するアンケート調査とその後の支援について（案）

<目的>

函館市における在宅看取りに関する現状を把握し、課題を明確にするためアンケート調査、訪問調査を実施する。

さらに、在宅看取りの場面における多職種間の望ましい連携のあり方を、広く関係者に伝播することを通じて、函館市における「在宅看取り」を推進する。

<方法>

1, アンケート調査

調査目的：在宅看取りに関する実態の把握と課題の抽出。

調査期間：令和元年10月～11月

調査対象：医療～医師

（平成30年度の在宅医療・介護連携マップの調査において、『訪問診療を行っている』と回答した診療所・病院）

介護～地域包括支援センター職員，介護支援専門員，訪問看護師，訪問介護員
（地域包括支援センター，居宅介護支援事業所，訪問看護，訪問介護，
定期巡回・随時対応型訪問介護看護，夜間対応型訪問介護）

調査内容：平成27年度のアンケート分析結果（別紙1）をもとに、在宅看取りに関する設問を設定し、その差異をみて課題の分析を行う。事業所単位，個人単位と2種類実施。
（事業所の基本属性，在宅看取りの実績数，在宅看取りに関する体制等）
（回答者の基本属性，回答者自身の在宅看取りの経験，在宅看取りにおける多職種との連携等）

調査方法：質問紙法。郵送配布，郵送（FAX）回収。

※令和元年度の在宅医療・介護連携マップの調査と同封し実施。

2, 訪問調査

調査目的：アンケート調査結果から在宅看取りの多職種連携含めた具体的な事例等の詳細の調査，確認。

調査期間：令和2年1月～

調査対象：10月実施のアンケート結果から，在宅看取りの経験がある，または多い事業所や回答者。（各種別2～3件程度）

調査内容：在宅看取りの経験がある，または多い理由の詳細。なぜそのような対応がとれるのか。工夫している点，課題となっていること。具体的な多職種連携の事例。

調査方法：事業所訪問，担当者へのインタビュー。

3, 在宅看取りへの支援

期間：令和2年度

内容：①研修会の企画（在宅看取り研修会）。

②在宅看取りに苦慮していると回答した事業所等については、必要に応じて、対応できている事業所等の体制・取組やマニュアルやポイント等を参考に（在宅看取りガイドの作成）、職員配置など事業所ごとの事情を勘案したうえで、センター職員が個別に事業所等を訪問して相談に応じる。

病医院長 様

函館市医療・介護連携支援センター
センター長 榎木 賢三

「在宅看取りにかかわる調査」へのご協力のお願いについて

拝啓 秋冷の候、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、函館市医療・介護連携支援センターでは、函館市全域における医療・介護連携における在宅看取りの実態を把握することを目的に、下記の内容で調査を実施いたしますのでご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

<調査名称> 在宅看取りにかかわる調査

<調査内容>

別添アンケート用紙のとおり

①医療機関用（回答は貴医療機関に所属するどの職種の方でもかまいません。）

②個人用（回答は貴医療機関にて訪問診療に携わっている医師にお願いします。）

※大変お手数ですが、個人用アンケート用紙は人数分をコピーしてお使いください。

<調査対象>

平成30年度の在宅医療・介護連携マップの調査において、『訪問診療を行っている』と回答した診療所・病院

※令和元年10月1日現在の状況についてご回答ください。

※ご多用のところ大変お手数をおかけいたしますが、別添アンケート用紙にご記入のうえ、**令和元年11月30日(土)まで**にFAXまたは郵送にてご回答をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

函館市医療・介護連携支援センター(函館市医師会病院内)

担当：佐藤，長谷川，中村

電話：43-3939 FAX：43-1199

E-mail：ikr-center@hakodate-ishikai-hp.jp

医療機関用

在宅看取りにかかわる調査（医療機関用）

貴機関について

貴機関名等	名称 _____
	連絡先（電話番号） _____
	ご記入者名 _____（職種） _____
(1) 種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 在宅療養支援診療所 <input type="checkbox"/> 在宅療養支援病院
(2) 訪問診療に携っている医師の人数	_____人

在宅看取りについて

※ここでいう『在宅看取り』とは、自宅、または高齢者住宅等（住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）における人生の最終段階にある患者に対し、患者本人の意思と権利を最大限に尊重し、本人の尊厳を保つと共に安らかな死を迎えるための人生の最終段階にふさわしい最善の医療、看護、介護、リハビリテーション等を行う一連の過程をさします。

(1) 貴医療機関において在宅看取りを行っていますか？また、その理由を教えてください。

<input type="checkbox"/> ①行っている	<input type="checkbox"/> ②行っていない
理由)	

(2) 貴医療機関においてこの地域の在宅看取りに関して問題だと思うことや、その解決策があれば教えてください。

※在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

--

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

FAXでの返信にご協力をお願いいたします。

個人用

在宅看取りにかかわる調査（医師用）

基本属性について

所属機関名等 名称 _____

年齢 _____ 歳 性別 _____ 男 _____ 女

訪問診療の経験年数 _____ 年

在宅看取りについて

※ここでいう『在宅看取り』とは、自宅、または高齢者住宅等（住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）における人生の最終段階にある患者に対し、患者本人の意思と権利を最大限に尊重し、本人の尊厳を保つと共に安らかな死を迎えるための人生の最終段階にふさわしい最善の医療、看護、介護、リハビリテーション等を行う一連の過程をさします。

(1) 先生は在宅看取りを行っていますか？また、その理由を教えてください。

※在宅看取りを行っている場合は平成30年10月1日から令和元年9月30日までの1年間で在宅看取りにかかわったおよその件数を教えてください。

※所属されている医療機関での在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

①行っている⇒ (_____ 件) ②行っていない
理由)

(2) 在宅看取りをすることは、医師にとって負担が大きいと思いますか？また、その理由を教えてください。※在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

①非常にそう思う ②そう思う ③どちらとも言えない ④そう思わない ⑤全くそう思わない
理由)

(3) 今後、この地域で在宅看取りのケースは増えていくと思いますか？また、その理由を教えてください。※在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

①非常にそう思う ②そう思う ③どちらとも言えない ④そう思わない ⑤全くそう思わない
理由)

(4) この地域で在宅看取りをする場合、連携できる職種（ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー等）が整っていると思いますか？また、その理由を教えてください。

※在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

①非常にそう思う ②そう思う ③どちらとも言えない ④そう思わない ⑤全くそう思わない
理由)

(5) この地域で在宅看取りに関して問題だと思うことや、その解決策があれば教えてください。

※在宅看取りの有無にかかわらずお答えください。

--

函医第163号
令和元年6月25日北海道渡島総合振興局長
佐々木 徹 様公益社団法人 函館市医師会
会長 本間

函館市医療・介護連携推進事業の広域展開に関する提言

拝啓

時下益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、函館市医師会では、平成27年より函館市ほか関係者とともに、医療・介護連携推進事業にいち早く取り組み、函館市医療・介護連携支援センターの開設と運営に必要な様々な仕組みを構築して参りました。この試行が4年経過した現在、函館市内における医療・介護連携は救急医療連携も含めて非常に良い方向へ整備されつつあります。一方他市町に目を向けますと、独自の形での事業展開により施設間移動に関して必要な情報が十分伝達出来ないなど、特に行政区を越える移動に際しいささかの問題が報告されております。このままでは医療・介護連携の地域間格差をきたし、築き上げた函館市のシステムが独り歩きする事態を危惧しているところでございます。

ご存知の通り、道南3二次医療圏域の特性として急変時は勿論、回復期の患者も函館市に集中しており、他市町の住民が函館市内に入退院する際、医療・介護関係者との連携は必須であります。またそれに関する函館市医療・介護連携支援センターへの相談件数も年々増えております。そして、現場レベルでのスムーズな情報交換の為には統一されたツールが必要であり、多くの時間と労力をかけて作成された『はこだて医療・介護連携サマリー』の運用が大変有益であるという声が多く寄せられております。

当会としては、実効性のある医療・介護連携を進めていく上では、函館市で確立した連携の仕組みを他市町に広げる具体的な話し合いを進めていく段階に入っていると考えております。

今後、地域医療構想の推進にあたりましては、病院機能の効率化（病床機能の再編等）と在宅医療の強化を両輪で進めていかなければならず、そこに携わる医師をはじめ、看護師、リハビリテーションスタッフ、医療事務などのメディカルスタッフを増やしていくことが必要です。当会では従来からの看護師養成の他、新たにPT・OTの養成も開始し、道南圏域の医療、特に在宅医療の充実に力を注いでいく所存ですが、そうした取り組みのベースとなる医療・介護連携の仕組みは、道南圏域の各市町において統一的に展開されることが望まれます。これは3二次医療圏の広域化に向けての第一歩でもあり、この目的を達成するためには当会が医療・介護関係団体のリーダーの役割を担い、行政間の共通認識の確立につきましては、北海道渡島総合振興局が函館市と協力しつつ、先導的な役割を果たすべきと考えます。

今後の道南圏域の医療・介護連携の充実強化が、圏域住民の暮らしの向上に繋がり、更には当地域が全国から医療・介護の行き届いた地域として認識され、多くの人々が集まり、それが地域の活性化に繋がるとなれば本望であります。貴職におかれましては、この実現に向けた広域的視点での取り組みに何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

函館市医療・介護連携推進事業に係る地域説明会（仮）の開催について

1 10月2日3者打合せ以降の経過

渡島保健所と函館市及び函館市医師会の3者実務者による打ち合わせ内容を、函館市医師会本間会長、渡島医師会 宮村会長に説明し、地域説明会（仮）の場を作ること、説明については函館市及び函館市医療・介護連携支援センターが行う予定であることについて同意を得ました。（10月18日）

2 地域説明会（仮）の内容について（案）

1) 目的

渡島保健所管内市町が函館市医療・介護連携支援センターの活動を知り、相互連携の推進を図るため活動報告の場を設定する。

2) 対象者

渡島保健所管内の事業担当課長及び担当者（地域包括支援センター職員）

3) 実施内容

- (1) 在宅医療・介護連携推進事業についての説明（渡島保健所）
- (2) 事業委託内容の説明（函館市）
- (3) 函館市医療・介護連携推進事業の活動実践及び渡島保健所管内で展開する場合のイメージについて報告（函館市医療・介護連携支援センター）
- (4) 質疑等
- (5) アンケート（必要時）

4) 会場

渡島合同庁舎

3 役割分担

	説明会開催、通知	渡島保健所
内 容	在宅医療・介護連携推進事業についての説明	渡島保健所
	事業委託内容の説明	函館市
	医療・介護連携推進事業の実践報告 渡島保健所管内で展開する場合のイメージ	函館市医療・介護連携支援センター
	アンケート（必要時）	函館市医療・介護連携支援センター
	管内市町の意向確認（事後）	渡島保健所

4 その他

函館市医療・介護連携支援センター職員への旅費等はなし